

『納税の先にあるもの』

町田市立堺中学校 3学年 加藤 匠

納税することが豊かで安心した生活につながるのだろうか。

以前、私は学校で税金について学ぶ機会があった。税理士の方から税金の種類や役割について話を聞いた。そして、納税は私たちが日々生活していくうえで必要不可欠なものだと学んだ。しかし、私は納税だけでは私たちの生活をより良いものにすることはできないと思う。

私たちが納めた税金は国や都道府県、市町村のもとへ集められる。そして、国会や各自治体の議会で話し合われ税金の使い道が使われる。つまり、私たちが納めた税金が私たちの望むように使われるとは限らないのだ。

年代や家庭状況によって税金の使い方に対する意見は十人十色だろう。例えば、子供を持つ世帯であれば教育への助成金や公共施設や公園の整備などを求めるだろう。一方、高齢の世帯では医療サービスや介護事業などに税金を使うことを求めると考えることができる。しかし、税金には限りがある。全ての人々の望みを実現することは難しい。

けれども、自分の望む税の使い道を議会へ伝える機会がある。それは、選挙だ。今年も参議院議員選挙が行われた。選挙運動期間中

は政党によって様々な税金の使い道が示されていた。例えば、今の消費税の税率を下げたり、防衛費を増額したりなど様々な考え方があった。そして、私たちは自分の税の使い道に対する考え方に近い候補者や政党を選んで投票することができる。選挙で選ばれた候補者や政党が私たちの希望を実現するために代表して議会で活動してくれる。だから、選挙は私たちの税の使い道を決める大事なもののだ。

それにも関わらず、近年選挙の投票率が低迷している傾向にある。日本では、十八歳以上であれば誰でも投票に行くことができる。けれども、選挙に行かないというのはどうということなのだろうか。納税をしているのに選挙に行かないのはお金をドブに捨てているのと同じである。

私たちは消費税などを通して税金を納めている。しかし、自分の納めたお金が私達の生活のために使われているか確認しているだろうか。また、自分の税の使い道の希望を議会へ届けているだろうか。中学生の私達は、これから各種の税を納めなければいけなくなる。しかし、しっかりと納税をするというのは大前提だ。最も大切なことは、私たちの税金が適切に使われているのかを確かめ、選挙などにおいて自分の意見をしっかりと議会へ届けることだ。そうすれば、私たちの生活はより豊かで明るいものとなるに違いない。そのため私は政治の話題に関心を持ち、税の使い道について自分の考えが持てるようにしていきたい。